



▲売上金を被災地へ送る手編み品の材料代に充てるバザーを開催

日本中が深い悲しみに包まれた、平成23年3月11日の東日本大震災から間もなく4年がたちます。

手編みサークルは、震災をきっかけに、被災者を支援するためにその年の夏に結成。手編みのマフラーなどの製作を始めました。

手編みサークルの代表を務める荒井勝子さんは、「最初は個人で始めた支援活動でしたが、1人の作業に限界を感じ、知人に声を掛けて手編みサークルを結成しました。サークル以外の知人からも協力を得て、千点以上を完成させ、24年11月に震災の爪あとが深く残る岩手県宮古市の仮設住宅の

集会場を訪問。手編み品をプレゼントし、手編み教室を開きました。」

それ以来、手編みサークルでは年に2回、市内栄町の笠井商店内の元気ギャラリーでバザーを開き、手編み品などを販売し、売上金を被災地へ送る手編み品の材料代に充てています。「毛糸などの材料の提供や材料代の資金援助、手編み品の輸送、被災地に送る丹前のクリーニングなど多くの事業所などの協力、なによりも市民の皆さんの温かな思いやりによって、私たちの活動は支えられています」と感謝しています。

さらに「被災地では仮設

住宅で不便な生活をしている方が数多くいます。私たちが送る手編みのマフラーや靴下、手袋が心や体を温めてくれると思うと、支援活動をやるわけにはいきません。1日も早い復興を願い、一針一針に真心を込めて製作するつもりです」と想いを語り、「今年最初のバザーは7月の留萌神社祭に合わせ、笠井商店内の元気ギャラリーで開きます。ぜひお立ち寄りください」と話してくれました。

◇ 被災者を手編み品で支援する手編みサークル。これからも思いやりの輪を広げる活動を期待しています。

一針一針に真心込めて 1日も早い復興を願う

手編みサークル



手編みサークル

あらい かつこ
荒井 勝子さん



▲協力し合い奉仕活動に汗を流す留萌中学校野球部の部員たち

除雪ボランティアは、留萌市ボランティアセンターが発足した昭和52年から行っている取り組みです。

除雪に困っている独居高齢者や在宅障がい者などを対象として、当初は同センター加盟団体が参加して除雪作業を行っていました。

が、高齢化社会など社会的な背景に伴って市民の関心も高まり、近年では加盟団体以外の参加も増えてきています。

留萌中学校野球部は、10年以上除雪ボランティアに参加し、さわやかな汗を流しています。野球部主将の明石悠馬君は「市内の野球大会で温かい声援を送って

くれたり、野球部OBの先輩たちが練習をつけてくれたりとさまざまな応援と協力を受け、たくさんの方に支えられて日々練習しています。除雪ボランティアは、野球部を応援してくださる地域の方に対する感謝の気持ちから行っています。」

1月下旬に行われた除雪ボランティアでは、野球部部員や野球部顧問の長縄淳教諭、同センター職員らが、高齢者宅を訪れました。スノーダンプやスコップを使って、軒下にたまった雪をおよそ1時間かけてきれいに取り除きました。

「窓を覆っていた雪を取り除いたあと、『ありがと

う。家の中が明るくなりました』と喜んでいただき、嬉しく思いました。除雪ボランティアは、部員同士が協力し合って取り組めるので楽しいです。部の伝統として次の代に受け継いでいきたいと考えています」と笑顔で話してくれました。

◇ 留萌市ボランティアセンターでは、「福祉豊かで住みよいまちづくり」を目指しています。

また、同センターでは、除雪ボランティアに取り組むことができる個人・団体を募集しています。参加方法などについては、下記までお問い合わせください。

奉仕活動にさわやかな汗 地域に感謝の気持ちで

除雪ボランティア 留萌中学校野球部



留萌中学校野球部

あかし ゆうま
明石 悠馬君